

南島文化研究所報

沖縄国際大学南島文化研究所
〒901-2701 宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

所長 上原 静
電話 098-893-7967

考古学からみた久米島の屋瓦

上原 静

歴史を遡ると屋瓦は有力者や権力者などを象徴する。琉球列島における屋瓦の登場は13、14世紀からである。浦添城跡や首里城跡など大型グスクから出土する灰色を帯びる高麗系瓦、大和系瓦が最も古い瓦である。ただ15世紀に入ると何故か廃絶してしまう。再び琉球で屋瓦が製作されるのは16世紀後半からで、中国の明朝系瓦と呼ばれる新たな種類であった。当初は灰色瓦で焼かれたが17世紀末頃から赤色瓦に変わると、本格的に周辺離島、先島まで広く伝わり、定着する。現在は島瓦として沖縄の原風景を描く一つになるが、実はその赤色瓦の歴史は新しい。わたしの研究の一つはこの屋瓦の窯業技術が、琉球に如何に取り入れられ、どう社会に変化をもたらしたのかを明らかにすることにある。

先島諸島における屋瓦の製作は、宮古島では18世紀に、八重山では17世紀末に始まっている。王府から派遣された技術者により窯が築かれるが、その後各独自の窯業が展開している。一方、久米島は18世紀初頭に蔵元が瓦葺きになるが、窯業については明らかでない。久米島の遺跡や歴史的建造物に具志川間切蔵元、仲里間切蔵元、天后宮、上江洲家住宅、君南風殿内などがある。両蔵元からは明朝系の灰、赤色の両瓦が発見さ

れ、灰色瓦建物と赤色瓦建物の2時期の推移が考えられる。その他の瓦建物はすべて赤色瓦が使われ、両蔵元よりは開始は遅れものとみられる。これら瓦類は何処で製作したものであろうか。出土瓦には先島諸島の様な独自の変化はなく、那覇のものに類似する。瓦の文様も数種類あるが、どれも沖縄本島と同系列である。これらのことから、王府時代の久米島は必要な都度、那覇から調達していたことが窺えるのである。この時代の屋瓦の使用は王府により規制されているため、需要が少ない久米島内での瓦生産は、粘土や薪（燃料）、窯の製作、運搬の労働力などに大きなコストが予想され、生産窯を築けなかったものと思われる。

かわって戦前の久米島には瓦工場が2軒、戦後は9軒あり、一時期は瓦葺き職人が本島の与那原からも呼ばれるほどに、瓦屋の需要が高かった。ところが、度重なる台風来襲で何時しかコンクリート住宅へ転換が進み、需要の激減から今日では全て廃業にいたっている。現在屋瓦は那覇から海路で搬入されているが、この需給関係は王府時代に各地離島別に取り入れた窯産業の仕組や政策の一端を現実でみるような気がする。

(※ 久米島地域調査が2011年3月まで実施される予定。)

2008年度所員会議及び議題

第3回所員会議

2009年2月2日(月)午後4時20分～6時

報告

1. 第160回シマ研究会の開催について
2. 第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の審査結果について
3. 久米島調査報告講演会の開催について
4. 今年度発行刊行物について
5. 事業費予算執行状況について

議題

1. 2009年度所員(更新)の選任について
2. 2009年度特別研究員(更新)の選任について
3. 2009年度事業計画(案)について
4. 2009年度事業計画委員の選任について



報告者の山川彩子所員

シマ研究会

第160回シマ研究会

日時：2009年1月26日(月)午後4時20分～6時

講師：山川彩子 所員(沖縄国際大学経済学部講師)

テーマ：「幻の沖縄県産ハマグリ類の謎を探るー首里城の王様が食べたハマグリは何者だったのか?ー」

コメンター：新垣 武 所員(沖縄国際大学経済学部准教授)

司会：名城 敏 所員(沖縄国際大学経済学部教授)

参加者：15名

第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞贈呈式

日時：2009年2月19日(木)午後6時30分～8時

受賞者：上里隆史 氏(法政大学沖縄文化研究所国内研究員)



受賞者の上里隆史氏

第1回久米島調査報告講演会

日時：2009年2月27日(金)午後6時30分～9時

会場：久米島自然文化センター・フロア

講師：名城 敏 所員(沖縄国際大学経済学部教授)

「久米島の自然環境」

吉浜 忍 所員（沖縄国際大学総合文化
学部教授）

「久米島の御真影と奉安殿」

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：60名



講演者の吉浜忍所員

2009年度人事

所 長：上原 静 総合文化学部教授

副所長：狩俣恵一 総合文化学部教授

新規所員（2009年4月1日発令）

砂川かおり 経済学部講師

仁野平智明 総合文化学部准教授

新規特別研究員（2009年4月1日発令）

弓削政巳 大和村誌編さん委員会委員（歴史学）

三上絢子 法政大学沖縄文化研究所研究員
(地理学)

所員会議・機構会議及び議題

第1回所員会議 2009年5月11日（月）

報 告

1. 2008年度事業報告
 2. 2008年度事業費予算執行状況
 3. 2009年度事業計画について
 4. 2009年度行事予定について
 5. 2009年度事業費予算について
 6. 紀要・報告書・所報の発行について
 7. 第161回シマ研究会の開催について
- 議 題

1. 2009年度新規所員の選任について
2. 第31回南島文化地域学習の実施について
3. 第31回南島文化市民講座の開催について
4. 南島研各種事業委員の選出について
5. 久米島総合調査について
6. 韓国、福建・台湾の調査について
7. 第14回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の募集について

第2回所員会議 2009年12月7日（月）

報 告

1. 第160回～166回シマ研究会の開催について
2. 第31回南島文化地域学習の開催について
3. 韓国・全南大学校湖南文化研究所主催の国際シンポジウムへの参加について
4. 第31回南島文化市民講座の開催について
5. 久米島総合調査について
6. 韓国調査について
7. 台湾調査について
8. 第14回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
9. 第2回久米島調査報告講演会について
10. 大橋秀雄資料（ゾルゲ関係資料）の感謝状授与式について
11. 今年度発行の印刷物について
12. 事業費予算執行状況について

議 題

1. 2010年度新規特別研究員の選任について
2. 次年度事業計画（案）について
3. 次年度事業費予算（案）について
4. 所長選挙の実施について

第3回所員会議 2010年2月8日（月）

報告

1. 第164回シマ研究会の開催について
2. 第165回シマ研究会の開催について
3. 第21回南島研セミナーの開催について
4. 第14回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
5. 第2回久米島調査報告講演会の開催について
6. 大橋秀雄資料寄贈者への感謝状授与式並びに講演会の開催について
7. 今年度刊行の刊行物について
8. 次年度の南島文化市民講座のテーマについて
9. 第32回南島文化地域学習の巡検場所について
10. 2009年度事業費予算執行状況について

議題

1. 所長・副所長人事について
2. 2010年度所員（更新）の選任について
3. 2010年度特別研究員の更新について
4. 2010年度事業計画委員会の選任について

第1回沖縄国際大学総合研究機構会議

2009年4月13日（月）

議題

1. 副機構長の選出について
2. 沖縄経済環境研究所支援助手の任用について

第2回沖縄国際大学総合研究機構会議

2009年5月25日（月）

報告

1. 2008年度南島文化研究所事業報告及び予

算執行状況について

2. 2008年度産業総合研究所事業報告及び予算執行状況について
3. 2008年度沖縄法政研究所事業報告及び予算執行状況について
4. 総合研究機構図書データベースの統合について（案）

議題

1. 2009年度南島文化研究所事業計画及び事業費予算に関する件
2. 2009年度産業総合研究所事業計画及び事業費予算に関する件
3. 2009年度沖縄法政研究所事業計画及び事業費予算に関する件
4. 2009年度沖縄経済環境研究所事業計画及び事業費予算に関する件
5. 2009年度南島文化研究所所員（更新・新規）及び特別研究員（更新・新規）の選出に関する件
6. 2009年度産業総合研究所所員（更新・新規）及び特別研究員（更新・新規）の選出に関する件
7. 2009年度沖縄法政研究所所員（更新・新規）及び特別研究員（更新・新規）の選出に関する件
8. 2009年度沖縄経済環境研究所所員（更新・新規）及び特別研究員（更新・新規）の選出に関する件
9. 産業総合研究所受託業務について

第3回沖縄総合研究機構会議

2009年7月29日（水）

報告

1. 2009年度農商工連携人材等育成事業補助金交付決定について

2. 2009年度第2回南島文化研究所所員会議
について
3. 2009年度第2回産業総合研究所所員会議
について
4. 2009年度第2回沖縄法政研究所所員会議
について
5. 2009年度第3回沖縄経済環境研究所所員
会議について

議 題

1. 南島文化研究所規則の改正（案）について
2. 産業総合研究所規則の改正（案）について
3. 沖縄法政研究所規則の改正（案）について
4. 沖縄経済環境研究所規則の改正（案）につ
いて
5. 2009年度沖縄法政研究所特別研究員候補
者（新規）の選出について

第4回沖縄総合研究機構会議

2010年3月10日（水）

報 告

1. 2009年度各研究所事業報告（2月末現在）
について
2. 2009年度各研究所予算執行状況について
3. 総合研究機構図書データベース統合進捗状
況について

議 題

1. 経済産業省平成21年度地域新事業移転促進
事業について
2. 2010年度各研究所事業計画（案）及び事業
費予算（案）について
3. 2010年度各研究所所員（更新）及び特別研
究員（更新・新規）の選出について
4. 2009年度沖縄経済環境研究所特別研究員
（新規）の選出について

2009年度事業報告

第161回シマ研究会

日 時：2009年5月18日（月）午後4時20分～
6時

講 師：桃坂 豊 氏（福岡県文化財保護指導委
員）

テーマ：「封印された列車爆発事故－沖縄鉄道
の歴史と悲劇－」

コメンター：波平エリ子 氏（南島研特別研究員・沖
縄国際大学非常勤講師）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：21名



報告者の桃坂豊氏

第162回シマ研究会

日 時：2009年7月13日（月）午後4時20分～
6時

講 師：豊見山 愛 氏（沖縄県立博物館・美術
館主任学芸員）

テーマ：「美術家たちの南洋群島展を終えて」

コメンター：石川朋子 氏（南島研特別研究員・沖縄
国際大学非常勤講師）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：15名



報告者の豊見山愛氏

第164回シマ研究会

日時：2009年12月14日（月）午後4時20分～6時

講師：来間泰男 所員（沖縄国際大学経済学部教授）

テーマ：「沖縄の原始を読み解く」

コメンテーター：上原 静 所長（沖縄国際大学総合文化学部教授）

司会：崎浜 靖 専任所員

参加者：40名

第163回シマ研究会

日時：2009年10月19日（月）午後4時20分～6時

講師：藤波 潔 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

テーマ：「台湾・淡水地域の歴史的特色」

コメンテーター：兼本 敏 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）

司会：桃原一彦 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

参加者：15名



報告者の来間泰男所員



報告者の藤波潔所員

第165回シマ研究会

日時：2010年1月25日（月）午後4時20分～6時

講師：岩田直子 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

テーマ：「障害の『社会モデル』から見る社会の障壁と沖縄の課題」

コメンテーター：高石 豪 氏（沖縄国際大学社会福祉実習助手）

司会：崎浜 靖 専任所員

参加者：17名



報告者の岩田直子所員

第31回南島文化地域学習

日 時：2009年11月14日（土）～15日（日）

1泊2日

場 所：渡嘉敷島

テーマ：「渡嘉敷島の自然と文化」

参加者：28名（教職員6名、学生22名）



地域学習の参加者

韓国・全南大学校湖南文化研究所主催の国際学術シンポジウム

日 時：2009年11月27日（金）

場 所：韓国・全南大学校

テーマ：「前近代東アジアにおける婚姻の社会史」

報告者：田名真之 所員

「近世琉球の士族層の婚姻について」

稲福みき子 所員

「沖縄の民俗社会に見る婚姻の特質と変化」

討論者：狩俣恵一 副所長

南島文化研究所代表(あいさつ)：上原 静 所長



パネリストの皆さん

第31回南島文化市民講座

日 時：2009年12月19日（土）午後1時～5時

場 所：沖縄国際大学7号館201号室

テーマ：「東アジアの中の琉球－島津氏の琉球侵略400年を考える－」

司 会：藤波 潔 所員

(研究報告)

講 師：夫馬 進 氏（京都大学教授）

「1609年、日本の琉球併合と中国・朝鮮の対応」

豊見山和行 氏（南島研特別研究員・琉球大学教授）

「江戸幕府の外交秩序と琉球－「御礼」とその諸相」

弓削正己 氏（南島研特別研究員・奄美史研究者）

「道之島の成立と幕末の奄美諸島－琉

球開国要求と奄美諸島内部の施策の変化ー

西里喜行氏（南島研特別研究員・沖縄大学教授）

「中琉関係史における『萬曆の倭乱』とその周辺ー『併合』と『両属』の間」

（総合討論）

司会：田名真之 所員

参加者：165名



南島文化市民講座の総合討論

第14回窪徳忠琉中関係研究奨励賞贈呈式

贈呈式・祝賀会：2010年3月5日（金）午後6時～9時

会場：沖縄国際大学厚生会館4階ホール

受賞者：陳セキゲン氏（琉球大学法文学部ポスドク研究員・歴史学専攻）



受賞者の陳セキゲン氏と上原静所長

第21回南島研セミナー

日時：2010年2月10日（水）午後3時～4時30分

会場：13号館309教室

講師：金容儀氏（南島研特別研究員・全南大 学校副教授）

テーマ：「韓国における沖縄研究の現況と展望ー沖縄の民俗文化を中心にー」

司会：狩俣恵一 副所長

参加者：40名



講演者の金容儀氏

第2回久米島調査報告講演会

日時：2010年2月27日（土）午後7時～9時

会場：久米島自然文化センター・フロア

講師：山入端律由所員・井村弘子所員

テーマ：「久米島におけるユタの巫業ー臨床心理学的接近の試みー」

講師：西岡 敏 所員・仲原 穰 南島研特別研究員

テーマ：「久米島の言語地図に見る地域性」

司会：崎浜 靖 専任所員

参加者：32名



講演者の山入端律由所員

大橋秀雄資料（ゾルゲ関係資料）に関する感謝状贈呈式ならびに講演会・資料展示会

日時：2010年3月20日（土）午後1時30分～3時30分

会場：13号館309教室

感謝状贈呈式：中島和子氏（神奈川県川崎市在住）

講演会：比屋根照夫氏（南島研特別研究員・琉球大学名誉教授）

テーマ：「ロサンゼルス時代の宮城與徳とその周辺－直原敏平と翁久三允－」

資料展示会：13号館310教室

参加者：23名



大橋秀雄資料寄贈者の中島和子氏

調査研究

久米島調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所長「久米島の考古学」

来間泰男 所員「久米島の農業」

吉浜 忍 所員『『学校日誌』に見る久米島の近代教育』*近藤氏・納富氏との共同調査

近藤健一郎 氏（特別研究員・北海道大学准教授）

納富香織 氏（特別研究員・県立公文書館）

西岡 敏 所員「久米島方言の記述言語学的研究」

名城 敏 所員「久米島の自然環境」

山之端津由 所員「沖縄の地域文化と心理臨床」

井村弘子 所員「沖縄の地域文化と心理臨床」

岩田直子 所員「久米島の障害者の暮らしと地域における支援の現状」

崎浜 靖 専任所員「久米島の歴史地理」

杉本信夫 氏（特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）「久米島の歌謡の変容について」

仲原 譲 氏（特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）「久米島の方言調査」

波平エリ子 氏（特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）「久米島の民俗」

小熊 誠 氏（特別研究員・神奈川大学教授）「久米島における門中の地域的特徴」

韓国調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所長「高麗瓦研究」

名城 敏 所員「珍島の自然環境」

呉 錫畢 所員「韓国珍島の経済状況の調査」

狩俣恵一 所員「韓国珍島の祭祀芸能における

社会的な役割についての調査」

田名真之 所員「济州島への琉球漂着船の研究」

尚真貴子 所員「济韓国济州地域に見られる日本語教育の現状と特徴」

李・ヒョンジュン 所員「韓国济州地域に見られる日本語教育の現状と特徴」

下地理則 群馬県立女子大学専任講師（言語学）

武黒麻紀子 早稲田大学専任講師（言語人類学）

斎藤郁子（財）沖縄県文化振興会沖縄県立公文書館委託職員

高橋正美 ノースイースタン大学准教授（老年・発達心理学）

台湾調査の参加者と研究テーマ

李イニッド 所員「客家児童の言語習得に関する調査」

兼本 敏 所員「蘭嶼・東海大学における調査」

高橋俊三 所員「蘭嶼・東海大学における調査」

松本三益資料研究会

吉浜 忍 所員（沖縄国際大学総合文化学部教授）

藤波 潔 所員（沖縄国際大学総合文化学部准教授）

鳥山 淳 氏（南島研特別研究員・沖縄国際大学非常勤講師）

納富香織 氏（南島研特別研究員・沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室専門員）

2010年度人事

所 長：上原 静 総合文化学部教授

副所長：田名真之 総合文化学部教授

新規所員（2010年4月1日発令）

砂川かおり 経済学部講師

仁野平智明 総合文化学部准教授

新規特別研究員（2010年4月1日発令）

所員会議・機構会議及び議題

第1回所員会議 2010年5月10日（月）

報 告

1. 2009年度事業報告
2. 2009年度事業費予算執行状況
3. 2010年度事業計画について
4. 2010年度行事予定について
5. 2010年度事業費予算について
6. 第166回・167回シマ研究会の開催について

議 題

1. 2010年度新規所員の選任について
2. 第32回南島文化地域学習の実施について
3. 第32回南島文化市民講座の開催について
4. 南島研各種事業委員の選出について
5. 久米島総合調査について
6. 韓国、福建・台湾の調査について
7. 第15回窪徳忠琉中関係研究奨励賞の募集について
8. 「南島文化研究所規則」及び「南島文化研究所特別研究員」に関する細則の一部改正（案）について

第2回所員会議（臨時） 2010年7月12日（月）

議 題

1. 「南島文化研究所規則」の一部改正（案）について

2010年度前期事業報告

第166回シマ研究会

日 時：2010年5月17日（月）午後4時20分～
6時

講 師：浦本寛文 所員（沖縄国際大学経済学部
講師・芸術学）

テーマ：「映像における認知と行動変容」

コメンテーター：金城規克 氏（南島研特別研究員・沖縄
国際大学名誉教授）

司 会：崎浜 靖 専任所員

参加者：19名



報告者の浦本寛文所員

第167回シマ研究会

日 時：2010年7月5日（月）午後4時20分～
6時

講 師：安斉英介 氏（浦添市教育委員会）

テーマ：「沖縄県内の石切について－浦添市西海
岸の石切場跡の調査成果を中心に－」

コメンテーター：田名真之 副所長（沖縄国際大学総合文
化学部教授）

司 会：上原 静 所長（沖縄国際大学総合文化
学部教授）

参加者：13名



報告者の安斉英介氏

第31回南島文化地域学習

日 時：2010年6月26日（土）

場 所：沖縄市

テーマ：「沖縄市周辺地域の文化と自然」

参加者：35名（教職員14名、学生21名）



参加者一同

沖縄国際大学総合研究機構がスタート

南島文化研究所では、ここ数年間の研究所改革のなかで、2009年4月より南島文化研究所を含む各研究所の事務局が統合された。事務局を新館の13号館1階に置き、沖縄国際大学総合研究機構としてスタートすることになった。また研究所事務局の統合にあたり、新たに経済環境研究所が発足することになった。南島文化研究所では、事務局の統合はあったものの、従来通りの地域調査・講演会などの諸事業を進める予定となっており、これまで以上のご支援をお願いしたい。

沖縄を返せ 沖縄へ返せ！

杉本 信夫

(作曲家・沖縄伝承音楽研究)

土砂降りの中、5.15普天間基地撤去、基地包囲行動に家族で参加、沖縄国際大学正門前に並び手を繋ぎ、午後3時の人の輪、13キロにわたる3回目の普天間基地完全包囲に間に合いました。

冲国大のヘリコプター墜落の現場は、現在は、焼け焦げた一本の樹木のみがモニュメントになっています。黒焦げになった1号館の壁面は、モニュメントとして残すように運動しましたが、取り壊されてしまい、今は新しく瀟洒な新築のビルに変わっています。しかしこの地面一帯は、墜落直後、普天間基地から大学のフェンスを乗り越えて侵入してきた米兵によって封鎖され、沖縄の消防隊、警察、大学関係者を排除し「治外法権下」、ごっそりと土砂を掘り返しもって行かれてしまったのです。飛び散った放射能、ストロンチウムが残存していると聞いています。

(劣化ウラン弾か？ 沖縄の鳥島では劣化ウラン弾や、残虐性ゆえにオスロ条約で製造、保有、使用が禁止された、クラスター爆弾などの実弾爆撃演習が行われているのです。)

沖縄を日本だと、「沖縄県」と言うならば、日本人よ！ このようなことが許されてよいのでしょうか。そればかりか、この5月4日に沖縄県庁を訪れた鳩山首相は、前言をひるがえし、ぬけぬけと「沖縄のみなさんにも負担をお願いしなければならない」と普天間基地の県内移設を公言したのです。

5月13日、わたしの住む糸満市で、『5.15平

和行進地元交流会』（5.15平和行進実行委員会、沖縄平和運動センター主催）が全国から集まった「南コース」の約180名の人々を迎え、サザンビーチホテルで歓迎夕食会が開かれました。地元側のエイサー、古武術など伝統芸能の余興の最後は、参加者全員の団結を示す「沖縄を返せ」の合唱です。

しかし今の若い人たちは、沖縄の返還運動時に広くうたわれていた「沖縄を返せ」にはあまり馴染みがありません。主催者側から、このうたの意味を説明して歌唱指導をして欲しいと言われました。

「復帰」後、このうたは沖縄では民謡歌手大工哲弘氏によって「沖縄へ返せ」とうたわれています。そこで、わたしはうたの最後のリフレイン“沖縄を返せ”を繰り返すところを“沖縄を返せ！ 沖縄へ返せ！”と、アメリカに対しては“沖縄を返せ”、日本政府に対しては“沖縄へ返せ”とうたい替えることを提案しました。今回の鳩山首相の発言は、まさに沖縄の日本「復帰」時のアメリカとの“核密約”の延長線上にあり、“沖縄のみなさんにも負担”などとは新たな「琉球処分」に外ならないじゃないですか。許しがたいことです。沖縄を「沖縄へ返せ」と言いたくなります。

南風原町文化センターに寄贈されていた、沖縄の返還運動時に使用された古い小型のアコーディオンを借りることができました。集会の最後は、全参加者が輪になってスクラムを組み、わたしの子供たちの沖縄の三板さんぱのリズムも加わって「沖縄を返せ、沖縄へ返せ！」の大合唱で盛り上がり、『5.15平和行進地元交流会』は成功裏に終了したのでした。

編集後記

この数年間は研究所の組織改革に始まり、韓国・湖南文化研究所と中国・福建師範大学中琉歴史関係研究所との協定校間国際学術シンポジウムの3年連続開催など、慌ただしい時間を過ごした。その間、琉球列島における地域研究も八重山諸島か

ら久米島への総合調査に移り、今年もすでに最終年度を迎えている。しかし、忙しいながらも忘れてならないことは、地域への共感と還元であることは論を待たない。今年新しい事務組織のなかで、さらなる飛躍を期待する年にしたい。(崎浜)